

令和4年度第2回板橋グリーンカレッジ運営協議会会議録

令和5年1月18日(水)
板橋区立シニア学習プラザ

【開 会】14時00分

<p>(事務局)</p>	<p>皆様こんにちは。本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。 それでは、運営協議会の開会に先立ちまして資料の確認をさせていただきます。お手元の資料を確認ください。</p> <p>○資料1 令和4年度板橋グリーンカレッジ大学院卒業研究発表会について ○資料2 板橋グリーンカレッジオープンキャンパスについて ○資料3 令和5年度板橋グリーンカレッジ受講生募集について ○資料4 令和5年度板橋グリーンカレッジ講義概要</p> <p>また机上に本日の協議事項、板橋グリーンカレッジ新構想の検討の方向性について関する資料を2点ほどお配りさせていただいております。不足がありましたら事務局までお知らせ願います。よろしゅうございましょうか。なお、会議録を作成する関係から議事の内容を録音させていただきますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>それではただいまより令和4年度、第2回板橋グリーンカレッジ運営協議会を開会いたします。議長副議長につきましては、第1回運営協議会に引き続き同じ委員に、議長、副議長をお願いしたいと思います。早速でございますけれども議事の方に移させていただきます。議事進行につきましては議長、よろしくお願いいたします。</p>
<p>(議長)</p>	<p>それでは本日第2回目ということでよろしくお願いいたします。</p> <p>はじめに本協議会運営要綱第6条第2項により、定足数は半数以上となっております。定足数は半数以上となっておりますが、本日は、今のところ7名の委員の方々の出席がございますので、有効に成立しているということを申し伝えさせていただきます。また本日は、傍聴の方はおられません。合わせてご報告いたします。</p> <p>それではお手元に配付しております次第に従って、議事を進めて参りたいと思います。</p> <p>まず資料1、令和4年度、板橋グリーンカレッジ、大学院卒業研究発表会について、この報告を事務局よりお願いします。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>それでは、報告事項の説明に移させていただきます。</p> <p>では資料1をご覧いただきまして、こちらグリーンカレッジ、大学院の卒業研究発表会ということで、毎年実施している発表会でございます。年間13回の講義のうち、前半は講義を取り入れ後期はグループに分かれて調査研究をしたその結果を、1年間の総まとめとして各コースの受講生が各グループで発表するという内容でございます。</p>

発表会の日程につきましては、項番2の通り3コースそれぞれになっておまして、ちょうど明日、文化文学コースが発表会の予定でございまして、社会生活コースに関してはすでに完了しております。健康福祉コースについては、来週の火曜日に実施する予定でございます。開催場所はこの教室の隣、教室1になりまして、項番4の各コースのテーマは、文化文学コースは、「名作ミステリーの楽しみ」で、東海大学文化社会学部教授の堀 啓子先生に1年間ご講義をいただいて、その講義と研究の結果を、20名4グループの受講者の方々が発表されます。

現在、教養課程及び専門課程を受けている受講生の方に見学できますよということで、事前申し込み制でお知らせしておまして、各コース見学者定員50名ですが、文化文学コース人気でございまして見学者が60名申し込みをいただいているところでございます。

社会生活コースに関しては、テーマが「日本の公共政策の研究－ウィズ・ポストコロナの日本の未来を考える」で、尚美学園大学総合政策研究学部教授 安 章浩先生に1年間ご講義をいただきました。こちらは14名5グループの方々が発表をされて、すでに発表を終えられております。こちらは見学者が43名いらっしやったということで、当日多くの見学者の方の前で皆さんが堂々と発表されておりました。

健康福祉コースは、テーマが「季節感と健康と福祉」で、講師が産業能率大学総合研究所兼任講師・社会保険労務士である奥村 禮司先生に1年間ご講義をいただきまして13名、4グループの受講生の方が講義と研究を行いました。こちらも見学者の方が申し込みで43名、今申し込みをいただいているところでございます。

事務局からは以上でございます。

(議長)

ありがとうございます。

本日は報告事項が4つ、そのあと協議事項で板橋グリーンカレッジ新構想の検討の方向性についてで、5つ議題がありまして、それを14時から16時までとなっております。

協議事項の板橋グリーンカレッジの新構想の検討の方向性についてこれはしっかり時間を確保してやったほうがいいと思います。もちろんその前の報告事項の検討をいい加減にやるという意味ではございません。ただ、協議事項についてしっかり時間をとって検討したいと思いますので、この大学院卒業研究発表会を始めとするこの資料1から4については、まとめてやることもありますが、一つ一つの項目はまずちょっと事実確認とか、そういったような形のところをちょっと中心にスピーディーにやっていたらと思います。

今の大学院の卒業研究発表会の報告を受けて、何かご質問やご意見はございますか。

・・・確認ですけれども、当初予定していた受講者数というのはクリアしているってことでしょうか。

(事務局)

受講者は定員30名、結果は発表会の人数なので、定員には達していませんでした。申し込み数はもう少しありましたが、途中でやめられた方等もいらっしやったこともあってこの人数となりました。

(議長)	結局、例えば社会生活コースとか福祉コースは定員30名のところ14名、13名ということですか。
(事務局)	さようでございます。
(議長)	<p>文化文学コースの名作ミステリー楽しそうだけど20名ってことですね。ちょっと人数的なところが弱いかなということですね。特によろしいですか、気がつかれたらまたおっしゃっていただきたいのですが、私ばかりしゃべって申し訳ないですけども、この2の社会生活コースについては、先生方にこんなこと言っちゃいけないのかもしれませんが、どうも公共政策の研究っていう言い方がね、公務員の皆さんにとっては言っている意味がわかると思うんですけども、一般の方に公共政策って言葉はどこまでなじみがあるだろうかと思います。タイトルについては、もう少し工夫されると参加者が集まるような気がいたしました。</p> <p>皆さん、ご意見よろしいですか。では、資料2の説明をお願いいたします。</p>
(事務局)	<p>それでは事務局から説明させていただきます。</p> <p>資料2をご覧くださいませ。板橋グリーンカレッジオープンキャンパスについてご報告をさせていただきます。</p> <p>第1回運営協議会の際にも少しお話をさせていただきましたが、グリーンカレッジ新構想に向けて多世代に学びを広げていく取り組みの一つとして11月頃から全世代へ向けた講義を展開していきたいということで、お知らせいただきました、その事業についてのご報告でございます。</p> <p>板橋グリーンカレッジについては、生涯学習課が中心となって学びのハブ機能を果たすために、多世代に向けた生涯学習環境の充実発展を図っていくことを目的に、令和4年度より生涯学習課へ移管となりました。この目的の達成に向けて、まずは今年度、昨年11月12日に板橋グリーンカレッジオープンキャンパスを開校いたしました。開校記念の実施結果と今後の講義予定については下記の通りでございます。</p> <p>まず項番1、開校記念講演実施結果報告ということで、令和4年11月12日土曜日に行わせていただきました。教室1で募集定員100名板橋区在住在勤在学の方を対象に募集をさせていただきますして、申込者数が84名の申し込みをいただきまして、当日は70名ご参加いただきました。こちらについては本日もご出席いただいているグリーンカレッジ運営協議会委員である河野先生に、講師をお務めいただき多大なるご協力をいただきました。こちらは板橋区の区制90周年記念事業というところで実施させていただきますして、英国文学の世界のピーターラビットのお話の絵本も、刊行されてから、120周年の迎える年でもございました。また板橋は絵本のまちとしてもプロモーションしておりますので、それらを踏まえて、先生にご依頼したところご快諾をいただきまして、テーマ「のんびりとピーターラビットのお話の世界へ」でご講義をいただきました。年代につきましてはこの通り、60歳未満の方が12名ご参加いただきまして、60代以上の方が58名受講いただきました。令和4年度につきましては聴講生等で惜しくも落選された方等いらっしゃると思いますが、おそらくその中でも受講されてきた方がいらしたのではないかなというところでございます。アンケート結果につま</p>

	<p>しては、この通りほとんど皆さんが満足していただいているところで、ご好評いただきました。講義が終わった後も、河野先生のところに受講者の方がいろいろ質問されに行かれたり、非常に良い講演会を実施していただきました。</p> <p>項番2が、シリーズ講義「板橋学～江戸時代の板橋の町と村～」というところで、計5回の実施を予定しております。テーマ、講義内容については裏面の実施スケジュールの通りというところで、5回、この通り、板橋につきましては江戸四宿の一つであった板橋宿がございまして、都市と村の暮らしが交錯する宿場町でした。一方で、板橋の村は、近郊農村として江戸の暮らしを支えてきたという背景がありますので、この板橋の町と村について考える、5回の講義を通して考えるという講義でございます。</p> <p>5回のそれぞれの内容と講師について、あと日程についてはそれぞれすべて土曜日、今週土曜日から2月25日土曜日にかけて行う予定で、1回目から4回目はこちらグリーンカレッジホールで講義を行いまして、5回目につきましては、徳丸にある旧粕谷家住宅、今年300周年を迎える、江戸時代の村の暮らしがわかるような住宅の見学会を予定しております。</p> <p>表に戻っていただきまして、こちらについては募集人数100名のところ、申込者数165名というふうにいただきまして、申し込みの期間もこれについては開校記念講演についてはちょっとバタバタと、なかなか申し込み期間が取れない部分があったのですが、こちらについては申し込み期間が少し取れたので、多くの申し込みをいただくことができました。</p> <p>資料については以上でございます。</p>
(議長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>板橋グリーンカレッジオープンキャンパスについて、確認したいのですが、シリーズ講義ですが、若い人から、年配の方までみんな参加できるってことですよね。そういう意味でのオープンキャンパスですか。</p>
(事務局)	<p>さようでございます。全世代向けというところで、こちら60歳未満の方からお申し込みをいただいております。</p>
(議長)	<p>わかりました。委員の皆さんいかがでしょうか。開校記念講演については、満足度がすごく高くて、98%っていう私なんかとてももちろんまねはできない。本日の会議に出席されている河野先生にご登壇いただいたわけですけど、せっかくですので、河野先生、何かお気づきの点とかございましたでしょうか。</p>
(委員)	<p>今回でもう7回目ぐらいで、コロナの前も講演、講義をしましたが、やっぱりちょっとコロナで皆慎重なところもあるのかなって感じがしてでも楽しくやらせていただきました。まだこの後もあるので、引き続きよろしくをお願いします。特にコメントはありません。ありがとうございます。</p>
(議長)	<p>固定客として、ある程度、何度も参加しておられる方がいらっしゃいますか。</p>

(委員)	僕がというよりもピーターラビットのファンがいたと思います。
(議長)	他にいかがでしょうか。 板橋学の方も100名のところ165名の申込みがあったということですか。全員参加はできませんよね、我慢してもらう方が出ますよね。
(事務局)	残念ながら定員が100名というところで100名以上になる方はちょっと抽選で、受講できないということになっております。
(議長)	なるほど。そうなってくると考えていただきたいのは、惜しくも落選された方のフォローですよね。
(事務局)	そうですね、ここまでご好評をいただけるとはというところもあったので、今後のオープンキャンパスに関しては、落選の方に関しても何かできることはないか、資料をお渡しするとか、そういうことができればと考えております。
(議長)	その程度でいいと思いますよ。どこかできりをつけないといろいろと言う人がいると思うので。わかりました。
(副議長)	よろしいでしょうか。
(議長)	どうぞ。
(副議長)	このシリーズは継続されるのですか今後も。
(事務局)	事務局でございます。 基本的には板橋学というシリーズで今後も継続をしていきたいと考えております。来年も概ね、できれば2回ぐらいはちょっとやっていきたいなと思っていて、今回は板橋の町と村ということで、江戸末期の頃の話を見せていただきますが、時代も変えたり、テーマも変えたりして、ちょっといろいろな視点から板橋の方を見つめていきたいということでやっていきたいと思っておりますので、また今後とも、お知恵もいただきながらやっていきたいなと思っております。
(副議長)	これだけ応募が多いので、ぜひお願いしたいと思えます。ありがとうございます。
(議長)	他いかがですか。また気がついたら言っていたらと思います。またまとめて後でお聞きしますので。 そういたしましたら、引き続き、資料3の説明をお願いします。
(事務局)	資料3のご説明をさせていただきます。資料3をご覧ください。 令和5年度板橋グリーンカレッジ受講生募集についてというところで、この表の通り実施させていただく予定でございます。 人数枠につきましては、枠組みにつきましては令和4年度と変更はなく

	<p>教養課程については、午前コースと午後コース、それぞれ各コース定員80名、合計160名の教養課程新入生を受け入れる予定でございます。</p> <p>講義時間は90分で、講義回数は年18回、前期が8回、後期が10回を予定しております。対象者は新規募集ということで、グリーンカレッジ卒業されたことない方を対象に新規募集ということになっております。</p> <p>専門課程につきましては、まず本課生でございます。令和4年度の教養課程を受けた方に関しまして専門課程に進級される方を、今週金曜日1月20日の教養課程の講座で、第1希望、第2希望のコース、意思確認とらせていただきまして、そちらの募集希望状況を基に進級をしていただきます。</p> <p>定員は各コース80名、3コースなので240名でございます。講義時間は90分。こちら講義回数年18回、前期8回、後期10回となっております。</p> <p>こちらにつきましては進級、教養課程から進級される方をすべて受け入れた上で、枠が余った場合に、聴講生を受け入れる形となっております。聴講生に関しては、グリーンカレッジやグリーンカレッジ大学院を卒業された方が対象となっております。</p> <p>最後は大学院です。大学院についても、令和5年度の文化文学・社会生活・健康福祉の3コースで実施する予定でございます。定員が各コース30名、合計90名。講義時間は90分、講義回数に関しては年13回となっております。</p> <p>こちらは講師の方とご相談させていただきまして、前期後期の回数を決めて、主に前期を座学でいろんなテーマの講義を受けていただいた後、後期に、各々が興味を持ったテーマについて、グループに分かれていただいて、グループごとに研究を進めていただき、最後に卒業研究発表会をしていただくという流れになっております。</p> <p>こちらはグリーンカレッジ卒業生を対象に募集というところとなっております。</p> <p>項番2につきましては教養課程、聴講生、大学院の募集日程等です。こちらについては、令和5年、今週土曜日の広報いたばしに掲載予定でございます。同時にホームページ等で、講義概要カリキュラムについては公表させていただき予定でございます。</p> <p>事務局からは以上でございます。</p>
(議長)	<p>令和5年度の受講生募集に係るご説明をいただきましたが、何か資料3についてございますか。</p>
(委員)	<p>ちょっと教えてください。教養課程160名、専門課程が本科生で240名、大学院で90名ってありますけども、これコロナ前と比べて、定員数は比較して、どんな状況ですか。</p>
(事務局)	<p>定員に関しましては、コロナ前に比べてほぼ半減というような形でやらせていただいております。</p>
	<p>本来であれば各コース150名受け入れて教室1にあるテーブル、皆さんがお座りのこのテーブルに3名座っていただいて、受講していただいていたのですが、コロナもまだ収束が完全にはというところがございますので、このテーブルで今のように2名ずつというところで、80名の定員で実施さ</p>

<p>(議長)</p>	<p>せていただき、令和5年度も引き続きその予定でございます。</p> <p>感染症対策とかいろいろありますよね。ほかにいかがですか。皆さん、何か。</p> <p>そういたしましたら、この令和5年度の受講生募集の運営方法とかにつきましてはこの後、資料4のグリーンカレッジの講義の概要とも関わってきますので、そのご説明を聞いてからまた改めて資料3について話してもいいと思うので、資料4のご説明をお願いします。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>資料4についてご説明させていただきます。令和5年度グリーンカレッジの講義概要でございます。1枚めくっていただきまして、まず令和5年度教養課程の方からご説明をさせていただきます。</p> <p>教養課程につきましては、全員が同じ講義、新入生全員が同じ講義聞きますので、2年目の専門課程に繋がる内容についてバランスを考えながら、組ませていただきました。まず、文化文学の分野からは、3コマでございます。</p> <p>1コマ目は、5月10日の「百人一首 日本の文華」でございます。日本の古典や歴史の風情を学ぶ上でなじみやすく身近な資料となっている百人一首について、当時の読み人たちの心情に思いをはせながら学ぶ講義というのを、古典文学研究家の山田 喜美子先生にご講義をいただきます。</p> <p>2コマ目につきましては、5月17日の「再発見 いたばしの歴史とたからもの」でございます。こちらは板橋の古代から現在までの通史に関して、それに関わる我々の宝物である文化財を中心に据えて、区生涯学習課文化財係長 吉田 政博係長が講義を行う予定でございます。</p> <p>文化文学の3コマ目に関しましてはこちら6月14日「おっとりといギリス児童文学の世界へ」でございます。誰もが知っているイギリスの代表的なキャラクターが登場する児童文学の世界を、受講者とともに眺めながら、その当時の時代背景について学ぶ講義というのをグリーンカレッジ運営協議会委員で本日もご出席いただいている大東文化大学文学部英米文学科教授 河野 芳英先生にご講義をいただく予定でございます。ありがとうございます。また本講義、6月14日講義の実施会場に関しましては、こちらも河野先生に多大なるご協力をいただきまして、大東文化大学様の施設である大東文化会館、東武練馬から歩いてすぐ3分ぐらいの場所の会館ですが、そこで実施させていただく予定でございます。</p> <p>次に社会生活、教養課程について社会生活の分野から2コマでございます。なお社会生活分野に関しては、板橋区が令和4年5月に、実は内閣府からSDGs未来都市というものに選定をされまして、区として区内全域にSDGsの普及啓発を進めていきたい思いから、SDGsの視点をメインにカリキュラムを組ませていただきました。</p> <p>まず1コマ目に関しましては、5月31日、1枚目の5月31日のところで、「気候危機とエネルギー危機に対して地域で私たちがができること」というテーマでございます。こちらについては、こういったテーマで講義をいただける先生について板橋区の環境政策課に相談した結果、板橋区立エコポリスセンターの講義でご登壇経験がある、特定非営利法人環境エネルギー政策研究所所長 飯田 哲也先生をご紹介いただきましてご快諾いただきました。飯田先生につきましては、環境省の中央環境審議会や、東京</p>

都環境審議会の委員などを歴任されている先生でもございます。

社会生活分野2コマ目に関しましては、6月28日、教養の2枚目、「身近なことからSDGsにチャレンジ!」というテーマでございまして、こちらは前述したSDGs未来都市の申請等を担当した政策企画課の職員が、SDGsについて身近な区政等の取り組みから学び、受講者が社会的課題を自分事ととらえるようなきっかけとなるような内容で講義を行う予定でございます。

最後に、教養の健康福祉分野から3コマでございます。共用の2枚目の6、7、8回でございます。1コマ目は、7月12日「楽しく学ぶ!認知症予防講座」でございます。講師は、明治安田生命相互会社池袋支社 教育育成課長の牛腸 知江先生でございます。明治安田生命様は、区と地域社会の発展に関する連携協定を結んでおりまして、社会貢献活動として講座を実施していることから、令和4年度に引き続きご登壇を依頼し、ご快諾をいただきました。

健康分野の2コマ目に関しまして、7月19日「健康なまちづくりと人と人とのつながり」でございます。高齢期におきましては、体が思うように動かなくなったり社会との繋がりが薄れたり孤独を感じやすく、内向的になりやすいことが課題となる中で、特に重要となる人との繋がりというのをテーマに、NPO法人健幸とまちづくり研究所理事長 藪田 碩哉先生にご講演をいただきます。

健康福祉分野3コマ目、7月26日「いろいろ食べて健康長寿」でございます。健康に生きていく上で、非常に重要である「食生活」をテーマに食事と栄養に関する知識と実践力を身につける講義というのを、東京都健康長寿医療センター研究所研究員 横山 友里先生にご講義をいただく予定でございます。

教養課程は以上となりまして、次めくっていただきまして、こちらこのページが河野先生にご登壇いただくときの会場の案内図となっております。こちら受講生用のものとなりますね。さらにその次のページで、一番下のこの通しページ番号9のところ板橋グリーンカレッジ専門課程についてご説明させていただきます。

まず文化文学コースでございます。文化文学コースにつきまして、まず専門課程につきましては各コースの内容について、申し込む方がわかりやすいようテーマを決めてカリキュラムを編成させていただきました。まずは文化文学コース、こちらについては当ページの上記のねらいの2行目以降のとおり、「令和5年度前期は、現代とのつながりが深い近代における歴史・文学・伝統文化等を学ぶことで、効果的に知識を得る。また、近代に絞ることにより、歴史的背景や当時の文化文学の深掘りを進め、専門的な知識の習得及び主体的に学んでいくきっかけをつくる」ということを目的として、日本の近代、江戸末期頃から昭和初期頃をテーマに実施するということで、各先生にお願いをさせていただきました。

第1回目から第3回目の講義テーマは、「“一目瞭然”「見て」学ぶ歴史学」でございます。日本の近代史をメインに、あの当時の写真や絵はがきなど活用して、視覚的にその背景歴史を学ぶ内容を、大東文化大学文学部歴史文化学科教授 宮瀧 交二先生にご講義をいただきます。

文化文学講義の第4回目から第6回目の講義テーマにつきましては、「没後120年の文豪・尾崎紅葉作品の世界」でございます。明治を代表する

文豪について、理解を深めるとともに、同時代の他の作家や作品との関係を明らかにして、明治における文学の背景を広く深く大きく考える講義を、東海大学文化社会学部教授 堀 啓子先生にご講義いただきます。

講義の第7回目から第8回目の講義テーマにつきましては、「板橋の祭事と伝承」でございます。こちらにつきましては、我々で日本の近代について民俗的文化的な目線からご講義をいただける先生を探していたところで、日本民俗学を専門に研究されている、跡見学園女子大学・國學院大學・中央大学兼任講師の鈴木 明子先生にご登壇の依頼をさせていただくことができ、ご快諾をいただきました。内容につきましては、国の重要無形民俗文化財に指定されている板橋区の祭事「田遊び」、こちら連綿と伝承されている祭事を初めとして、江戸東京の地域の変遷と祭事について、板橋や他地域の事例も織りまぜながらご講義をいただく予定でございます。

文化文学コースは以上でございまして、次は社会生活コースでございます。めくっていただきまして、社会生活コースに関しましてもこのページの上記ねらいの2行目以降の通り、「令和5年度前期はSDGs（持続可能な開発目標）をメインテーマに環境分野について学び、受講者各自が環境問題などの社会課題や気候変動に伴う災害対策について「自分ごと」と捉えられるような深い学びをめざす」ことを目的に、環境面から考えるSDGsということテーマにカリキュラムを編成いたしました。

講義の1回目から2回目は、「知って得する身近な環境—より良い暮らしのために—」でございます。こちらは区の環境衛生の専門職員として、長年環境行政の現場に携わってきた、健康生きがい部生活衛生課環境衛生施設係長 上野 邦夫係長が、過去の自身の経験事例を踏まえて、身近な問題を様々な視点で解説していただき、それらについて受講者とともに考える講義を実施いたします。

こちらの社会生活の3回目から4回目の講義は、「SDGsと環境問題の関わり—すべてのアクターに求められる行動と変革—」でございます。こちらは、我々でSDGsの歴史的背景や環境問題についてご講義いただける先生を探して、結果、環境教育や持続可能性などを研究されている東洋大学情報連携学部准教授 平松 あい先生にご登壇の依頼をさせていただきましてご快諾をいただくことができました。

講義の第5回目から第8回目は、「異常気象時代における災害への備え」でございます。異常気象により年々激しさを増している、水害の備えについて水害と河川整備の歴史や、近年の水害の特徴などについて学びまして、環境問題の知識だけではなく、受講者とその周りの方々の命を守るための大切な知識について、東京都立大学都市環境学部教授 横山 勝英先生にご講義をいただきます。

社会生活コースは以上でございまして、次は健康福祉コースでございます。健康福祉コースも、当ページの上記ねらいの2行目以降のとおり、「令和5年度前期は「健康づくり」をテーマに学び、生涯を通じた学びの土台として重要な、健康的な生活づくりをめざす」ことを目的にカリキュラムを編成いたしました。

講義の第1回目から第3回目につきましては、「漢方を学び自分の体質を知ろう」でございます。こちらは、食生活等についてご講義いただける先生を探していたところ、くしくも漢方という、これも健康に重要なテ

マを研究されている、日本統合医療学園理事長・星薬科大学客員教授 吉村 吉博先生を見つけましてご登壇をご快諾いただきました。内容は医学の基礎を学んだ上で、自分の体質を見つけ、その体質に合った漢方薬を見つけるきっかけとなるような内容となっております。

講義の4回目から5回目に関しましては、「感動を忘れた時から認知症が始まる。認知症にならない為に」でございます。体の中で最も重要と言っても過言ではない脳の健康を維持するためには、感動を得ることが大事といった視点で、NPO法人日本万華鏡セラピー協会会長 島崎 勝信先生にご講義をいただきます。

講義の第6回目から第8回目に関しましては、「健康に長生き「フレイル予防」！の習慣を実生活に取り入れていきませんか」でございます。こちらは、本日もご出席いただいております、板橋グリーンカレッジ運営協議会委員の東京都健康長寿医療センター研究所研究員 西 真理子先生にご登壇をお願いさせていただきました。ありがとうございます。内容につきましては近年、心身ともに健康で長生きするための考え方として注目されているフレイル予防について、その重要性や方法をはじめ、受講者自身とその周囲にも広めていけるような基礎的な知識を学ぶ講義を実施していただく予定でございます。

専門課程は以上となりまして、次に大学院の説明をさせていただきます。めくっていただきまして、大学院の文化文学コースのページでございます。

まず大学院のカリキュラム編成するに当たりまして、現在の専門課程を受けている受講者の方に、大学院で何を学びかたいかについて、21分野ほど選択肢をつけてアンケートをとらせていただきました。その結果を、参考にカリキュラムを編成しております。

まず文化文学コースにつきましては、アンケート結果で日本史が21分野中3位ということで、文化文学分野で1位であったため、日本史の中でも特に人気のある戦国史をテーマに「戦国武将を研究する」という内容で、東京大学史料編纂所准教授 金子 拓先生にご講義をご快諾いただきました。内容について前期は、著名な武将、これら5人について学んで、後期は受講者が各々好きな武将についてグループに分かれて研究をするといった内容を予定してございます。次に社会生活コースでございます。

社会生活コースにつきましては、アンケート結果で環境問題が21分野中4位であったため、これに関するテーマとさせていただきます。前述の通り、板橋区ではSDGsの普及啓発を進めていきたいという思いもございますため、「SDGsのまち・自然・暮らしを考える」というテーマで、東洋大学情報連携学部教授 後藤 尚弘先生にお願いしご快諾をいただきました。内容については、板橋区がSDGs未来都市に選定されましたが、その主役に関しましては区民の皆様であることを受講者に再認識していただきまして、SDGsを生かしたまちづくりのための知識や思考を身につけることを目的に、前期はSDGsの歴史と最新の知見とその具体的取り組みなどについて学びまして、後期はグループに分かれてSDGsの精神が活かしたまちづくりや、豊かな暮らしに関する企画などについて、グループごとに研究することを予定しております。なお本講義につきましては、板橋区のSDGs未来都市申請に携わった区の政策企画課職員も含めた先生との打ち合わせにより決めさせていただきました。

	<p>最後に、健康福祉コースでございます。めくっていただきまして最後のページ、こちらアンケート結果で、実は心理学が21分野中1位であったため、これに関するものとさせていただき、「幸せな高齢期のためのこころとからだができることを考える」をテーマに、高齢者の心理学を研究されている、東京都健康長寿医療センター研究所 福祉と生活ケア研究チーム研究員 増井 幸恵先生と、同研究チームで、高齢者の運動機能や生活機能を幅広く研究されている、吉田 祐子先生にご登壇をご快諾いただきました。内容につきましては、高齢期にあらわれる心と体の健康問題と、心と体の関係を知りましてその対処法を身近なことから考えるとといったことや心や頭を動かすことによる体の健康向上や、逆に体を動かすことによる心の状態を考えるなど、心と体のクロスオーバー、関係性について見ていく内容をご講義いただき、後期はグループごとにテーマを決め、グループで研究していくといった内容になっております。</p> <p>長くなってしまいましたが、資料4の令和5年度講義概要の説明については以上でございます。</p>
(議長)	<p>ありがとうございました。そういたしましたら一通りご説明いただきましたけども、どんなささいなことでもよろしいので何か気がついたことがありましたらお願いします。いかがでしょうか。</p>
(副議長)	<p>今回は特に大学院の方のカリキュラム、非常に時宜を得たといえますか、高齢者にとって大切な内容を、ポイントをいろいろと含んだ良い選定だなというふうに思います。大変興味深く見せていただきました。特に文化文学コースの金子拓先生は知名度が高いので、本当良い講義が聞けるんじゃないかなと期待しています。</p>
(議長)	<p>ほかはいかがでございましょうか。</p>
(委員)	<p>すごくささいなことだけでも、大学院のページの一番下ですが、「受講理解度ほかやむを得ない事情等により」って書いてあって、これ教養課程等にはこういうものがないので、これは大学院をちょっと差別化しているみたいな感じ、むしろ僕は嫌な感じがするのだけれども、そこはほかと同じようにやむを得ない事情等によりでいいじゃないかしら。</p> <p>皆さんで検討してください。無理強いはしません。</p>
(議長)	<p>ありがとうございます。</p> <p>大学ではシラバスにあらかじめ予防線を張っという、学生からクレームが来るのを避けたいという傾向で執筆する教員がいますけど、それとは違う環境だと思いますので、確かにおっしゃるように、受講理解度などと書くと、気分を害すると人もいるかもしれませんから、そこまでは書かなくてもいいのではと思いますね。他に、何かお話ありますか。</p>
(事務局)	<p>事務局で抜く方向でいいのかなというところで、検討させていただきます、ありがとうございます。</p>
(議長)	<p>ほかに何かありますか。</p>

(委員)	<p>ピーターラビットの話は、私が全然違うグループでかなりたくさんの人たちが行っている学校の時に、ピーターラビットで河野先生のことを結構知っている方がいて、私にとってはピーターラビットって童話とかそういう話だと思っていたのですが、彼女たちにとっては、研究対象になっているということでした。だから今度、読みなおし先生のお話を伺いながら、そういうことなんだっていうようなことがありました。またもう一度こういうふうに、お話を伺えるっていうのはよい機会だと思いました。</p>
(議長)	<p>今のご発言と関連してちょっと私気が付いた点がありますので申し上げますけども、先ほども来年は違うテーマでやりますとか、そういったような話が出たと思いますが、我々にとっては、同じテーマを繰り返すと不安になりがちなのですが、聞いている方は初めての人とかいるわけなので、去年はこれやったから今年はこれをやろうっていうのもいいですけども、場合によったら毎年同じ事を繰り返すのも必要なのかなと思いました。でない、初めての人が参加したときに、今まで参加している人とね、何となくその講師先生との間の関係が、親密になり過ぎていて、なかなかその輪に入っていけないような雰囲気生まれますよね、そういったところも気をつけたほうがいいのかなと思いました。好評を博している講座であればあるほど、そういった問題があるのではと思いました。ほかに何かございますか。</p>
(委員)	<p>普通の授業というか、教養・専門課程から大学院に行く際、何か選抜とかそういうふうなことは結構大変なんでしょうか。大学院というのはどの程度難しいっていうか難易度があるのか、そういう選抜っていうと人数的にはかなり減るような感じになっていきますけれども、どうなのでしょう</p>
(事務局)	<p>大学院につきましては、選抜というか入試みたいなものは特になくて、希望された方につきましてはできるだけ受け入れる形で、定員をどうしても超えて受け入れが物理的にちょっと難しいとかコロナの危険性があるというところであれば、抽選によって、決定させていただくという形にはなるかと思えます。</p>
(議長)	<p>今のような形で事実確認でも結構ですので、ほかに何かございませんでしょうか。</p>
(委員)	<p>よろしいですか。前回の協議会で、僕の方から、大学の施設を使ったらどうですかっていうことで、大東文化でも文化会館というところのことになったのですが、実はこれ本当は僕のイメージとしてイメージで僕の最初の考えは、キャンパスのほうに行っていただいて、昼ご飯とか大学の食堂とかね、そういうところで学生と一緒に食べてもらおうと良い思い出とか経験なるのかなと思っていたのですが、今回コロナの関係でそれがちょっとかなわなかったもので、近かって意味ではとてもよかったですけど、今後、コロナが収束したり、ちょっとそういうことができるのであればキャンパスで行うっていうのも一つの方法かもしれません。ちょっと言</p>

<p>(事務局)</p>	<p>い添えておきます。</p> <p>今の河野先生のお話に関して、先日河野先生から大東文化の事務局の方ご紹介いただきまして、私の考えでいくと河野先生おっしゃられたそのキャンパスを使っていただいて、授業を受けていただくと、そのあとに、ちょっとお茶でも飲んでということで、カフェテリア等で学食等お茶を飲んでいくっていうのに加えて、できれば大学の図書館を使わせていただけないかなと。やっぱり大学の図書館って、通常の図書館と違っていろいろもっと学びを深化させるのに非常にいいところですので、グリーンカレッジを受講している皆さんにつきましては、大学の図書館もぜひ使わせていただけないでしょうかというお話もさせていただいております。今のところやはりコロナの関係で、一般の方がなかなか入るのが難しいという状況でございますので、この状況が落ち着きましたら、ぜひそういったところも含めて、お話をさせていただきたいと思っておりますし、大東文化以外にも、他の大学の先生方にもちょっとご相談をさせていただいて、せっかく区内に何大学もありますので、そういったところとも有意義に連携させさせていただきながら、事業を進めていきたいなと思っておりますのでございます。以上になります。</p>
<p>(議長)</p>	<p>ありがとうございます。せっかく外で講座をおやりになるわけですから、やっぱり普段あんまり大学のキャンパスの中を歩くことは、機会ないと思いますので、何かを感じ取っていただけたらと思います。他はいかがですか。</p>
<p>(委員)</p>	<p>意見とかはないですけど、何ていうのでしょうか、ぱっと見ただけで結構こういう構成で成り立っているのだからなっていうのがすごくわかりやすく改変されていて毎回思うんですけど、このカレッジのカリキュラムというか何か全部楽しそうで、いつもこう見ながら何か意見ってよりは私自身がいつも参加したくなっちゃうので本当申し込んでも抽選で駄目だった方、本当になんかかわいそうというかって思っちゃうので、何かそこら辺のやっぱ対処、先ほどお話ありましたけど、いただけたらすごくうれしいなというふうに私も感じます。以上です。</p>
<p>(委員)</p>	<p>今の話に関してですが、聴講っていうのは、あくまで在校生じゃないと駄目でしたっけ。もしも私も何か伺いたいようなことがあったら、時々後ろの席で静かに聴講させていただくこととかあるんですけど、私の場合は在校生ですけども、その場合は、今先生がおっしゃったように、当日申し込んだり、他になにか方法っていうのはあるのでしょうか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>聴講については専門課程だけです。教養を卒業された方につきましては、専門に行っていただいて卒業した後でまた別の分野について聞きたい場合文化文学科を卒業しても、別の社会コースに行きたいとか、そういった時については聴講という制度がございます。</p>
<p>(議長)</p>	<p>ここまでのところで、いろいろなご意見とか質問が出てきたと思いますので、事務局の方で、できることできないこととかあると思いますけども</p>

	<p>ご検討ください。</p> <p>55分経過しましたので、ここで休憩をちょっと入れて頭休めてそれから協議事項の方に話を進めていきたいと思えます。そういたしましたら今のこの時計で55分ですので、10分休んで15時5分から再開ってことでよろしいですか。では少し休憩とします。</p> <p>(休憩)</p> <p>(議長) 続きまして、協議事項です。議事次第で協議事項についてというのが、大きな3番で、板橋グリーンカレッジの新構想の検討の方向性について検討したいと思えます。今日これについて資料は、我々の机上にあるものですよね。その資料のご説明をお願いいたします。</p> <p>(事務局) 事務局でございます。引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>今の協議事項ということで、板橋グリーンカレッジ新構想の検討の方向性についてということで、ご紹介ございましたが、協議というよりは、皆さんの忌憚のない意見をお聞きいたしまして、今後の方向性にどうそれを活かしていくのかというお話を今日させていただきたいと思えます。</p> <p>それではご説明のほうさせていただきます。資料は今後のグリーンカレッジのあり方についてというものと、板橋区種類別講座リストという二つをちょっと使いましてご説明させていただきたいと思えます。令和4年度から、以前の高齢者部門から教育委員会事務局の生涯学習課の方に、グリーンカレッジ事業が移管をされてきたと。当初より前回のこの場でも、このグリーンカレッジを多世代型にしていくというような方針の方を申し上げたと思えます。今日はその以前の話というか、なぜ多世代型にするのかということで、生涯学習課の方にこの事業が来た経緯というか、来た結果どういった方針にグリーンカレッジが変わっていったのかについてのご説明させていただきながら、今後のあり方についてを皆さんとご協議していきたいなと思っております。</p> <p>それでは今後のグリーンカレッジのあり方という資料を見ていただければと思えます。生涯学習課の方に参りましてグリーンカレッジが参りまして、これまでの高齢者政策から生涯学習政策のほうに目的が変わってくるということは、以前もお話をさせていただいたのですが、それでは生涯学習と社会教育というものの概念があるのですが、これっていうのは一体何なのかっていうところからちょっとご説明をさせていただければなと思っております。まず、生涯学習というのがこの図を見ていただきたいと思っておりますが、家庭教育っていうところと学校教育、その真ん中に社会教育というところのベン図のようなものがありましてその下に自主学習というのがあって、そのトータルが生涯学習という形になっております。下の文章の方に行きまして生涯学習とはということで、教育基本法の第3条で生涯学習の理念がございます。これは国民一人一人が自己の人格を磨き、豊かな生活を送ることができるようにその生涯にわたってあらゆる機会にあらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことができる社会の実現が図られなければならないと規定されております。これが非常に重要な概念になりますので、ご記憶いただければと思ひ</p>
--	---

ます。下にちょっと矢印が入ってしまっていて、生涯学習というのは、社会教育や学校教育を通じた意図的、組織的な学習もちろん個人による学習や様々な活動から得られる意図的でない学習も含むと。学びに繋がるものはすべてどの世代であっても、どの瞬間であっても生涯学習に該当するということで、かなり広い概念がございます。

もう一つ社会教育、我々社会教育推進係という係で、社会教育を推進している立場でございまして、今主管の方は社会教育の方やっているということですが、社会教育とは一体何なのかということ考えますと、社会教育法第2条に概念が出ていまして学校の教育課程として行われる教育活動除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動、これは体育及びレクリエーション活動も含むとされております。つまり、学校教育を除いたものを、あらゆる組織的な教育活動はすべて社会教育という概念になります。これが生涯学習と社会教育の概念ということで、基本的にはこれを達成するために我々の事業が行われているということでご理解いただきたいと思っております。これがまだまず大前提になります。

続きまして、項番の二つ目、第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理というところで、令和4年の8月に第11期中央教育審議会生涯学習分科会では、現在の社会状況と構造的変化に対応する生涯学習、社会教育のあり方を検討したと。最後のページに概要版を載せさせていただいております。これは国の、中央教育審議会の中でなされた議論の報告書になっております。内容としましてはこれあくまでも概要版でして本当はこのような形で、結構分厚くはないです、20ページぐらいの報告書が出ておりますので、今日は皆様にお渡しはしておりませんが、ご興味あればホームページで見ることができますのでご覧いただければと思います。ここで、これまでとちょっと変わった形で生涯学習の方がとらえられておまして、我々についてもこの議論の整理に基づいて生涯学習政策というのを打っていかないといけないのかなと考えておるところでございます。

まず生涯学習社会教育をめぐる現状課題というところで、まず一つ目が、社会やライフスタイルの変化により人と人との繋がり希薄化に関する課題が顕在化、深刻化していると。もともと社会教育というのは、住民自治の方から来ている概念でもございますので、要は人と人との繋がりが希薄化していくと、それが地域に与える影響というのはかなり大きいということをごちらのほうでも話として出てきています。その下のところに、社会的包摂とその実現を支える地域コミュニティが一層充実になると。社会的包摂というのはまた後程ご説明をさせていただきたいと思いません。

もう一つ、新しい資本主義に向けた人への投資の充実デジタル社会の進展への対応の必要性が増大していくと。これ特に社会人の学び直し、現在リスクリングであるとか、アップスキリングとかそういった言葉で表現をされておりますが、社会人であっても、ずっと学び続けていかないといけないということで、生涯学習が一層充実になると。その中ではやっぱりデジタルデバイドの解消であるとか、デジタルリテラシーの向上というのが喫緊の課題になっているということが課題として挙げられております。これについても、グリーンカレッジでも、どのような形でこの課題を解消できるのかというのを後程ちょっとご説明させていただきたいと思いません。

項番の2番として生涯学習社会教育が果たし得る役割というところで、これ後程細かくやりますのでここは簡単にご説明させていただきますとやはり不確実性の時代においては、学び続けることが大事であるということで、これは世代を問わず学び続けていくことが生涯学習・社会教育の中で必要だということになるかと思えます。それについてはウェルビーイングの実現ということでこれウェルビーイングも後程ご説明をさせていただきますが、生涯学習社会教育を通じてウェルビーイングの状態を作っていくと。それから下の部分です。社会的包摂どのような対象であっても、誰1人取り残されることなく学習機会を提供するということが非常に重要な状況になってくるだろうと。この辺はまた詳しく後程ご説明をさせていただきます。最後3番目として今後の生涯学習・社会教育の振興方策として、五つ今回方策の方挙げられております。具体的に1個ずつは見えていきませんが、グリーンカレッジでこの中でできるものは何だろうか、例えばリカレント教育の推進であるとか一番上の社会教育施設の機能強化であるとかってこういったところは、グリーンカレッジでも十分対応していくことができるような状況ですので、これについてこういった政策を打っていくのかっていうのは我々の今後のあり方の検討の中で出てくる話なのかと思っております。

それでは資料の前のページに戻りまして。次のページいきまして、③でグリーンカレッジの現状というところに行きたいと思えます。グリーンカレッジの現状分析をこちらのほうで若干させていただいております。

グリーンカレッジは平成6年にシニア世代の多様化、高度化する学習要求にこたえるがまず一つ。それから二つ目として、シニア世代の地域社会における活動を促進するということを目的に設置され、当初より高齢者生きがい支援事業として実施をされておるところでございます。今申し上げました二つの目的についてはグリーンカレッジ要綱の第1条のほうに決定がされております。その後平成15年には、グリーンカレッジ卒業生の新たな学習の受け皿として、板橋グリーンカレッジ大学院を設置いたしまして、さらなる高齢者の学習機会提供の充実を図ったという状況がございます。先ほど定数のお話も出てきましたがこれちょっとまた再度ご説明をさせていただきますと、令和元年までは定員を840名。令和2年は学習環境の適正化のため、720名に減員したと。これは満タンに人を入れて、なかなか講義の受けづらいというご意見もあったということをお聞きしまして、そこでちょっと若干人数を減らさせていただいたというようなところで720人に減員をしたという状況がございます。令和3年度以降につきましては、コロナ感染症対策として、定員を490名ということにしたことにより、教養課程につきましては申し込み数が定員を上回る状況となっております。かなりの落選者というのがいらっちゃったということはお話をお聞きしております。

令和4年度に教育委員会事務局生涯学習課に事業移管をされまして、現在検討を進めているのが要綱上の設置目的、前述の高齢者生きがい事業のみになっているところを生涯学習・社会教育の実践場としての設置目的を加えるとともに、社会教育施設としての機能強化を目指した事業実施について検討を進めて続けているところでございます。

続きまして、4番目今後のグリーンカレッジに求められる役割というところを進めていきたいと思えます。先ほど申し上げました第11期中教審の

分科会から出された提言の中から、生涯学習社会教育が果たしている役割が次の通りでございます。四つございましてまず一つ目は、生涯学習社会教育の基本的役割、真の役割、生涯学習社会教育の、先ほども申し上げました教育基本法第3条による生涯学習の理念を達成するための役割が必要であると。矢印が三つありましてまず一つ目が、生涯学習は予測困難な時代において各個人が社会参画を果たすために、人生の諸段階において必要となるものであり、今後の個人の人生を支え自己実現を図るために重要な役割を果たしていく。

二つ目が、社会の進行により住民が主体的に学ぶ意思を持ち、教え学ぶ当事者になり、その学習の成果が地域における活動に還元されるような循環が期待できると。

三つ目が一番重要なところでございまして、世代や属性の違いを超えて住民同士が交流できる居場所を整備することや、住民に身近な圏域を中心として、人と人、人と場所をつなぐようなことが必要とされるとともに、住民の学びや活動の拠点として、社会教育施設がとらえられていると。こういったことが生涯学習社会教育に求められている基本的な役割だろうと、今後、時代が変遷するに従って、新たに役割というのが求められて、生み出されたのが2番、3番、4番というところになりまして、まず2番目、ウェルビーイングの実現ということでちょっと次のページに米印でウェルビーイングの説明を書かせていただきましたが、個人的な状況評価による幸せ、今自分が幸せだと思っている幸せではなくて、個人の権利や自己実現等が保障され、身体的精神的社会的に良好な状態にあること。客観的に見ても幸せな状況にあるというところ、個人的な主体評価ではなくてということで、これがウェルビーイングの概念でございます。これを実現するために社会教育、生涯学習としてどのような形の役割を果たすべきかというところが、次の三つの矢印になりまして。学び合う・教え合う・助け合う・励まし合うという総合性に支えられながら、一人一人が主体的・持続的に学んでいく生涯学習は、多様なウェルビーイングを実現するような場をみずから他者との関係性の中でともに建設していく上で重要であると。

続きまして二つ目の矢印、ウェルビーイングの実現のためにも、人生の各場面で生じる各個人の課題に対応した学習機会や社会的な課題に学習機会が保障されることが大事、重要であると。

三つ目、リスクリング・アップスキリングを目的としたリカレント教育にとどまらず、社会の変化に応じて年齢を問わず必要となる基礎的なスキルの習得のための学習や自己実現を図る上で必要となる学習を含めたリカレント教育を提供することが重要であると。どの世代においても、こういったリカレントの教育が必要であるということがこちらの方で提言として出されております。

次のページいきまして、(3)として地域コミュニティの基盤としての役割。社会教育は個々人の教養の向上や生活文化の振興のみならず、人々の生活基盤を形成する学びの実践の核とした地域づくりの営みという性格を持っていると。社会教育の推進、振興により、主体的に社会を形成する住民の意識や活動の活性化に繋がると。これは先ほど申しました通り、住民自治であるとか、そういった形になるかと思うのですが、各個人による地域課題の解決に繋がっていくというところで、そういったところを、基

礎知識として与えられる場所になっている必要があるというところがこちらの文脈になっております。

最後4番目として社会的包摂の実現を図る役割と。これにつきましては社会参画に制約のある高齢者、障害者、女性、外国人、貧困の状況にある子供、孤独・孤立の状況にあるもの等を含め、誰1人取り残すことのない社会的包摂の実現に向け関係機関の連携やICTの利用により、必要な生涯学習・社会教育の機会を提供することが重要であると。実際にグリーンカレッジにしますとグリーンカレッジに実際に来たくても来れないという状況の方もいらっしゃると思いますので、こういったところにつきましてはICT等々の利用によって社会的包摂の実現を図る役割がグリーンカレッジに求められているという、こういった文脈にはなっております。

以上4点の役割、11期中教審分科会から出された役割の4つのところから、こういった役割を、実際は様々な教育、社会教育施設で提供することが必要であると。我々のほうでも社会教育施設いろいろ所管しておりますので、それぞれの場所でそれぞれのところがこういったものを提供できるのかというのは検討していかなければならないのですが、そのうちグリーンカレッジに求められる役割というのは、以下の3点であるかなと考えております。

一つ目として、生涯学習・社会教育の拠点として、地域住民の横の繋がりを生み出すこと。これにつきましては今も、今日、OB会会長様もいらっしゃるかもしれませんが、OB会であるとか、あとはグループによる学習、それからサークル活動であるとかこういったものについては、今後も維持しつつ、地域住民の横の繋がりにってというのは担保していかないといけないのかなと考えておるところでございます。

二つ目、あらゆる世代が生きていく上で必要な知識、端的に言いますとリベラルアーツという形になるかと思うのですが、それを身につけるための学びを提供すること。教養だけでなく、教養というのも非常に大事なものであると思うのですが教養だけではなくて、例えば先ほど言いましたとおり住民自治に繋がるような実学の部分。先ほど公共政策の話もありましたけれども、こういった学びについてはおそらくこういったリベラルアーツに繋がっていく事業になるのかなと考えておりますので、こういった必要な知識を、こういったものの知識をご提供すればいいのか、その知識を深化させるためにはどうしたらいいのかというようなことを検討していく必要があるのかなと考えております。

最後、誰1人取り残すことのない社会的包摂の実現を意識した学びを提供すること。先ほどもICTというお話も出てきました。ソフト面ハード面から、これをやっていく必要があるのかなと。ソフト面でいきますと、例えば全く今まで都合があって、学校教育を受けられなかった方に対してそういった事業を提供するであるとか、あとハード面につきましては、先ほどあぶれて、要は抽選で落ちてしまった人をこういった形で救うのかっていうところになると、例えばYouTube等々を利用した、ICTを利用した通信課程等を設けるとか、そういったのも考えられるのかなと思っておりますので、その辺を含めて今検討を進めているところでございます。

こうした三つの視点を基に今後のグリーンカレッジの設置目的の再検討、ちょっと今のところはシニア世代に特化したような形の設置目的になっておりますので、これをもう少し広げる形の設置目的を置かせていただ

きたいという再検討と、実際のこの三つをどういった形で提供するのかという、枠組みの再構築を現在課のほうで行っているところでございます。

今後の予定でございますが、令和5年度中には、新たな枠組みでのグリーンカレッジを皆様にご提示をしたいと考えております。その中ではこういった運営協議会の中で皆様のご意見、ちょっとずつ具体案を出しながら、皆様のご意見をお聞きしつつ、決定をしまして令和6年当初から、新たなグリーンカレッジに移行を今検討しているところでございます。ちょっとなかなかそもそも論になっていまして、なかなか今回議論ができるかどうかという私もちょっと心配なところではございますが、忌憚のない意見をいただければと思います。

それからもう1点資料、板橋区種類別講座リストというのを今日つけさせていただいております。これにつきましては、先ほどいろいろな学び、教養とか実学であるとかいろいろな学びをご提供する必要があるというところで、改めて区の各所管課が、どういった事業を提供しているのかというのを1件1件ちょっと調査した結果になっております。これ全部合わせると、大体1,600講座ぐらい区のほうではやっております、端的に言いますと親子向け講座から最後の女性化活躍躍進というところで、かなりいろんな多岐にわたってやっていることが基本的にはわかったということと、ここで具体的には表示はしておりませんが、ターゲット、年齢層を見ますと教養課程、いわゆる教養については、若年層、青年層に当たる部分の教養課程の教養講座というのがなかなか足りてないってことがわかりましたので、そういったところをやればグリーンカレッジでやっていくべきなのかなと。年齢を問わず教養の学びを提供するようなことをグリーンカレッジでやってくべきなのかなと。そういったことはこの調査からわかったということになります。

最終的にはこういったところも含めて、あらゆる場所ですべての年代がすべての事象について学ぶことができるような、ちょっと相場的な話になって申し訳ないですがそういった形を取れるように生涯学習課としても足りないところはグリーンカレッジでやっというところか、ほかのところやっというところも含めて、生涯学習事業を一元化するような形で事業を進めていきたいと考えておるところでございます。

ちょっと長くなりましたけれども、説明は以上になりますので、ちょっとお話を聞かれた中で何かご意見等々あれば、忌憚なく教えていただければと思いますよろしく願いいたします。

(議長)

丁寧にご説明いただきました。グリーンカレッジの現状をどのように行政として認識されているかということと、それから板橋区の種類別講座リストを大変な労力だったと思いますけどもお調べいただきましてこの場に出していただいております。貴重な資料ですよね。基本的なところでも結構ですし、どういうことでもよろしいので、グリーンカレッジの今後のこととかちょっといろいろと皆さんのご意見をお聞かせ願えたらと思います。いかがでございましょうか。

(副議長)

事務局さんのお話で、この講座リストを見せていただいて、本当目がくらむような表題、目次の部分から結局親子向け講座、非常に枝分かれするわけですよね、どんどん。トータル1,600講座っていう、これを今後も維持

<p>(事務局)</p>	<p>していけるのか、ちょっと危惧するのですけども、その辺いかがですかね。</p> <p>基本的には各所管の方で、自分の所管に関することをいろいろ提供しているということです。実際に、地域住民の方の役に立つというか、いわゆる実学の部分と、あと自分の仕事に関しての説明っていうところもあって。基本的にはこれは維持されるものだということは、考えておるところでございます。ただ、見ていただくとおわかりの通り、結構重複しているようなところもありまして、これがおそらく違う課で同じような内容をやっていたりとか、そういったところもありますので、この辺はちょっと我々がどこまで関与できるかわかりませんが、調整のほうはしていく必要があるのかなと。その他で足りないところもやっぱりあるんです。</p> <p>先ほどもちょっとお話しました通り、青年層に対する教養講座、教養課程が足りないであるとか、あとリカレントの方も若干ちょっと足りない部分も結構あり、リカレントビジネスとかこの辺についてもちょっと足りないところがありますので、こういったところも主管課と連携して、グリーンカレッジでもできるところでやっていきたいなと思っておりますし、もう少しこのリストの中身を精査する必要があるのかなと考えているところでございます。以上になります。</p>
<p>(議長)</p>	<p>他いかがですか。どうぞ。</p>
<p>(委員)</p>	<p>まず基本的なこと、グリーンカレッジは60歳以上の方がグリーンカレッジで学ぶことができるっていうことです。今お話を聞いていると年齢を問わずという、それも一つの方法だと。でも今までずっとそれをやってきて、その60歳以上っていうことをステータスというか、ずっとやっていったところに、この若い人たちが入ってきて、今までやってきたそのOB会を含めてグリーンカレッジの人たちがどう思うかっていうのはちょっとどう思うのかなって気がします。</p> <p>それとあと、今さっき事務局さんおっしゃったように、各所管がいろいろやっていて、それぞれちょっと言い方悪いけど縄張りみたいなのあるところで、これを一元化しようってさっき言っていたけれども、その一元化ってとても大変なことだとは思っただけで、その辺の展望というか、今のこういうことを新風にやっていくってことは大事なことだと思うけど、それを一元化するっていうのは、何かちょっと気になるというか、大変じゃないかなって、そのところはどうお考えですかということが質問です。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>ありがとうございます。まず1点目のご意見として、60歳以上の方のお話がありました。私も当初にこのお話をした通り、生涯学習の理念に基づいてこの事業というのは行われなくてはいけないと、これちょっとまず一つ目として、設置目的の転換というのがちょっとあるのかなと思っております。ただ今おっしゃられた通り、60歳以上の事業は平成6年からずっと綿々と続けて続けてさせていただいておまして、ある程度の高齢者事業としての側面も、これは維持していかないといけないのかなと思っておるところでございます。例えば、ここでちょっと正式にお話を、正式にというか、検討の中では例えば先ほどのカリキュラムですと、健康に関するカリ</p>

	<p>キュラムだけは60歳以上に限定するであるとか、あと興味ある方は、その通信、DXっていうかICTを使って若い人は見てもらうとか、そういったところもいろいろこう方法を使って、あらゆる人に提供できる枠組みっていうのはつくっていききたいなと思っているところではございます。</p> <p>それから二つ目。一元化のお話がありましたけどやはり先生おっしゃる通り、これをまとめて、生涯学習課のほうで一元化して事業を提供するのはなかなか難しいところではございます。最初には、誰でも好きなときに、あらゆる情報にアクセスできるところからスタートしようと思っております。ですんで、これを一元的に情報として管理するところからスタートしようかなと思っております。ですんで、こういった事業は何課で、いつやります、この講座はいつスタートですとかっていう事業の情報提供の一元化っていうところからスタートさせていただきたいなと。最終的にもし事業自体の一元化というのも可能であれば、ただ1,600ありますのでなかなか難しいところだと思うのですが、そこまで行ければいいのかなとは思っておりますが、スタートとしてはその辺でいききたいなと思っております。以上になります。</p>
(委員)	<p>おそらくボランティア的なこととかね、自由にやっているところが、そういう板橋区ということのお墨付きみたいになってくるとこうやりにくくなってくるとも結構あると思うのです。法律とか、その辺のところっていうのは、そこも僕はちょっと心配しているところです。本当にまったく手弁当でやっているところに、板橋区の何かが入ってくると広報だなとかなくなってくると、また縛りが出てきちゃったりするとね。またそういうことはまた別枠で考えているのかもしれないけども、何かそういう意味ではちょっとそういう部分も心配している部分があります。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございます。確かに先生おっしゃられる通りで、今までずっとそういうような形で手弁当というか、自主的に活動されている団体さんの状況については、例えば情報提供で我々が協力するであるとか、その講座に我々が出ていって、我々が管理するっていう方法はおそらく取らないと思っております。自主的な活動、最終的にこういった活動って、区が主体としてまずスタートして最終的に皆さんが自主的に活動するっていうのが一番のゴールだと思いますので、もうそこに至っているものについては、我々は後方支援というところでやるのかなと思っております。以上になります。</p>
(議長)	<p>今大事なところを議論されているところですが、他いかがですかね。ちょっとわかりにくい点もあったかもしれませんが、区民代表委員さんは区民の立場から、どのような感想をお持ちになったのでしょうか。</p>
(委員)	<p>私がちょっと感じたのは、門戸を広げる、広く年齢とか関係なく講座を広げる、講座を開くということは非常に良いことだと思っております。そこで人と人との繋がりというか、若い人と高齢者の人と、いろんな考えの人が集まって話し合い、いろんな交流を持つことはやっぱり一番大事だなと思っております。</p> <p>私も40年間同じ会社に勤めておりましたせいで、つき合う人っていうの</p>

はものすごく限定されてくるわけです。若い人たちといっても自分と同じ仕事の職場の中、あるいはその関係の中でしかつき合いがないわけです。もっと他の人の意見を聞きたい、話がしてみたいなというのはずっと思っておりました。

そういう意味では非常に良いなと思うのと、あともう一つ、例えば大学で言えば、広い大教室でやるその授業ももちろん必要、多くの人に門戸を広く開けるっていうのは非常に大事なことだと思いつつも、例えばゼミのように小さなと言いますか、研究とか同じテーマで話し合う場というのは、やっぱり非常に個人同士の相手がわかる。教える方も教えられる方も、お互いの考え方とかいうものをぶつけ合うことができるという、そういうゼミ的な場がやっぱり欲しいなっていう気がするんですよ。

矛盾することではありますけれども、できれば両方やって欲しいなというのが正直なところで、私も、ゼミでやった仲間っていうのはいまだに年賀状の交流はもちろん、何年かに1回集まったりして、非常に繋がりが深くなるわけです。そういうこともやっぱり非常に大事にしていきたいなと思います。

特に年取ってくると友達が増えないですよ。そういうこともありますので、いろんな人たちと集まれる広い場っていうのと、それからもっと深く交流できる狭い場っていう、そういう相反する矛盾するところでもありますけれども、そういう両方の面を大事にしていきたいなと思います。

それから、年齢を広げるということはもちろんですけど、いろんな人がいるんですよ、社会の中では。正直に言うと、貧乏人から金持ちまで、あるいは頭のいい人からそうでもない人たちまでいろんな人がいるわけですから、そういう人たちをできるだけその「社会的包摂」というのでしょうか、たくさんの人を取り込めるような内容といいますかね、そういうこれもやっぱり矛盾するところがたくさん出てくると思うんですけども、そういうところも塩梅して、バランスをとっていただけるやり方がいいのかなと思います。

この資料に1,600種という講座の大変なリストがありますけれども、これ見てみますと、何と申しますか、自分がやりたい習い事的なところがかかなり多くあって、こういう人たちは自分たちでグループついたりサークルついたりして結構やっているんじゃないのかな、これはこのまま放置というところとあれですけど、やりたい放題やっていただいて、なおかつこういうのをやっていますよという、そういう広報的な部分で支援していくということがいいんじゃないのかなという気がしました。

ちょっと取り留めない話になりましたけど。

(委員)

今のご意見等にも繋がると思うのですが、昔板橋区がもっと財政が豊かなころは、海外派遣とかで海外でいろいろなことを見てきて、それを報告して検討していただくとか、いろいろな試みがありました。私もそのころ北欧とかカナダのバーリントンに行きました。だんだんそういうこともなくなりました。やっぱり財政の面とかだとは思いますが。今はそういうことが、区民の手にゆだねられているのでしょうか。そういうふうにはせざるをえない状況になってきたのだとは思いますが。ですから、今まで行ったことがあるとか、やったことがあるとかいう人たちの考え方とか経験とかをまた、反映させて、今に活かせるとかいうことがあ

	<p>れば、よいかもかもしれませんね。以上です。</p>
(議長)	<p>今の区民の代表の方からのお話を受けて、いかがでしょうか。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございます。</p> <p>まず座学でたくさんの方と触れ合える事業がある、その他に小規模のゼミ、ゼミナール形式のものも欲しいという、まさに大学ってそういうところだったと思うんですね。大きい、私も大学行ったときはマスプロってよく言われましたけど大きい事業で、大きい講堂で200人、300人集まって同じ授業を聞いているっていうで、それで横にいる学生と一緒に仲良くなったり、そういう繋がりも出てくる。そういった大きいところでいろんな所と繋がる、知り合えるっていう繋がりもありますし、やっぱり私もゼミ入っていましたが、ゼミの横の繋がりやっぱりあそこは人数もそんなに多くない20人、30人ぐらいで、小さく一つのことを研究っていうか研究活動を行っていくというところで、同志みたいな形でやっぱ横の繋がりが強固なものになってくると思います。これについてはぜひ今後、今も大学院制度っていうのはありますけれども、その制度も維持しつつ、より強固な関係性をつくれるようなカリキュラムであるとか、システムの方にちょっと考えていきたいなと考えておるところでございます。</p> <p>それからいろんなカナダに行かれたお話をいただいたのですが、多世代にわたる講座ってそこが非常にいいところでして、自分の経験、持っている経験をいろんな方に提供していただけることで、その知らない人もまさにそういった経験をもとに、じゃあどうしてこうかっていう考えを持つことができるというところで、これが学び合うというか、そういったところに繋がると思います。現在はグリーンカレッジにつきましては座学が主なような状況にはなっておりますけれども、今後は、何て言いますか、人生を経て、経験をされたことをいろいろ語り合う場であるとか、そういった皆さんで教え合うような場っていうのは、大いに作って横の繋がりというのを強固にしていけるような場所にしていきたいなと思っております。それを方法が年齢を区切ったわけではなくて、多世代にわたる形で連携できると非常にいいのかなあと思っております。その形がサークルであるのか授業の中でできるのかっていうのは、ちょっと今後検討していきたいと思っております。以上になります。</p>
(議長)	<p>いかがでしょうか。</p>
	<p>ちょっと基本的なところですけどね、今後のグリーンカレッジのあり方についての、ここ大変苦労して図を作っていたのでございますけれども、これは事務局の方で作られたのですか。</p>
(事務局)	<p>そうです。文章については、この④の前段の部分につきましては、11期の分科会の提言を抜き書きさせていただいたところがありますが、後半の求められる役割については、私のほうで作成をさせていただいております。</p>
(議長)	<p>私が間違っていたら申し訳ありませんが、社会教育は生涯学習の一部の概念であると説明されている。この理解の仕方は果たして正しいのでしょ</p>

うか。社会教育と生涯学習の違いというのは、今日ご説明いただきましたけど、組織的な教育活動であるかどうかという点です。社会教育の中には「そんなこと教えてもらわなくてもけっこうです」というものもあります。例えば麻薬常習者に対して、「薬物はダメ」というDVDを見せるとか、交通違反をした人に対して、免許の更新のときに交通事故現場の映像とか見せるとか、「そんなの見たくない」と言われても強制的に見せる。あれも社会教育なんですよ。

社会教育と生涯学習は全く次元が違います。社会教育は生涯学習の一部ではありません。このように私は理解しているんですけどね。かつて文部科学省が、生涯学習政策局という部局を置いたときに、他の省庁はみんな抵抗した。一省庁が生涯学習全体を仕切るなんてそんな勝手なことやらせてたまるかと。どの省庁も生涯学習に関わっているはずだと。結局、文部科学省は、生涯学習政策局を総合政策局に名称変更したでしょう。社会教育を担っていた省庁が、生涯学習全体に関わるのは無理な話だったんです。社会教育と生涯学習は次元が違うということを理解していただいた上で、次になすべきことは、先ほどからいろんな委員の方から意見が出ているように、多様なニーズがあるわけですよ。中には、ここの図にあるように、自分でやっていきたいって人もいます。そういったいろんな様々な学習の形態というものを支援するのが行政の役割なのです。そこをお考えいただきたい。

先ほどからお話があったように自主的に区民の皆さんが自分たちの興味関心でやっているところもあるわけです。そういったものに対して、どうやって行政として支援していくのか。そういったところも含めて考えないと、せっかく行政がお膳立てしても「それはやってもらわなくてもいいよ」ということになる。だから、一体区民の皆さんが何を求めているのかとか、そういったところについてもう少しやっぱりリサーチがいるかなというような印象を持ちました。ちょっと言い方が失礼かもしれませんが。

グリーンカレッジに求められる役割のところ、例えば、誰1人取り残すことのない社会的包摂の実現を意識した学びを提供すること。この文章にもう少し言葉を加えて欲しいです。「学びの場を例えば提供する」だけじゃなくて、「学びを支援する」とか、そういう言葉がやっぱり必要なんじゃないかな。世代間の交流ということで、幅広くってというのはわかります。でもその一方で、例えば世代が60代以上っていうところに限定されているから逆に安心してやって来る人もいるわけです。そういう場合もあるかもしれない。推測で物を言っていますけど。そういったところでどうやって、配慮するのか。その辺のところ、行政には求められるのかなというふうに思います。

I C Tの利用とか、そういうのって私なんかの場合、学芸員時代にお客様は博物館に団体の申し込みをなさる時、「それはホームページにある書式をダウンロードしてやってください。そのほうが早いですよ」などとい申し上げたものです、今にして思えば、お年を召した方に「ダウンロードの仕方もわからないのか」などと言ったに等しく、なんて不親切な対応をしてしまったのかと今でも自責の念にかられています。そういった点からすれば、社会的包摂の実現というのはすごく大事なことで、じゃそれはどうやったら実現するだろうか。その辺のところはいろんな方々に聞かれた

<p>(事務局)</p>	<p>方がいいと思いますよ。</p> <p>グリーンカレッジの事業が長寿社会課から教育委員会の生涯学習課にスライドしましたが、そのことで、今まで長寿社会課が担ってきた大事な部分が落ちては困る。そのへんのところをお考えいただきたいなと私は思いました。すみません。偉そうなこと言いました。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>まず生涯学習のお話ですけれども、先ほどもこの種類別講座リストをご覧になっていただくと、これって先ほど申しましたように、各所管の事業です。ということは、生涯学習がすべてを提供しているわけではなくて、全庁的に生涯学習に当たるものをすべて提供しているっていうことで、確かに生涯学習一つの小さな課が一つ一元化にしてできるものではないっていうのは十分承知しております。それは国の、先ほどの文科省の話も繋がってくるところなのかなと思いますし、ただ我々としては、その学びをいかにこう、学びの場というか、いかに支援できるかっていう。先ほど一元化のところでは言ったのは、こういったものを知り得る状況にするのが我々の使命なのかなと。こういった事業があります、いつあります、対象は誰です。こういった方に、初心者向けですとかもうちょっと上級者向けですとかとその辺のレベルまでかみ砕いて情報としてご提供するのが一元化の主たる目的なのかなと考えておりますので、現状そういった線に沿って今やらせていただいているところでございます。</p> <p>それから社会的包摂でもご意見をいただいておりますが、社会的包摂の中には、先ほど申しました通り社会参画に制約のある高齢者っていう部分も出てきます。ですので、これまでは高齢者が主体というかシニア世代が中心というかほぼシニア世代対象の事業であったところですが、社会的包摂ではもうあらゆる人ですので、その中で高齢者っていう方も今までとおり落としてはいけないっていうのは十分我々も理解をしているところでございますので、どういったスキームでそれを維持できるか、調整できるかっていうのを、今後1年間かけて検討して、皆さんとともにより良いグリーンカレッジをつくっていききたいなと考えているところでございますので、先生のご意見非常に我々はまだちょっと検討不足だなと考えておりますので、ぜひいろいろ皆さん教えていただいて、一緒に作り上げていきたいなと考えておりますので、どうぞ今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
<p>(議長)</p>	<p>先ほどは余計なことを言いました。でもどういった形で支援していくかっていうことが、大事だと思います。何から何まで設定して、「はい、これやってください」ではなくて、そこだと思います。大学院においても、座学で講義をやっているときはみんな一所懸命ですけど、グループ学習をやりだすと途端に動きが鈍くなったりとか、けんかしたりとかいろんなことが起きるわけです。挙げ句に、「グループ変えてくれ」と言われたり。そういうところを、どうやって支援し、学ぶことの喜びっていうのを感じてもらおうか。そこが大事だと思います。</p> <p>あんまり司会がしゃべっちゃいけないですけど。時間もあまりありませんけど、いかがでしょうか。今回の会議だけで終わりじゃないですよ。今後も、何度かありますよね。</p>

(事務局)	<p>もちろん。前回もお話しました通り、会が2回ぐらいしかないので、ちょっと意見は皆さんにお聞きしたいなど。こういったこれからどんどん具体案が出てくると思います。方針もちょっと再設定が必要なのかもしれないですけども、それも含めて、具体案を皆様にお見せしつつ、個別に意見もお聞きしたいなど思っておりますので、まだまだちょっと1年間ぐらいはちょっと皆さんおつき合いいただければと思いますので、よろしくお願ひします。</p>
(議長)	<p>これからも検討の過程を何度か、しょっちゅうでなくてもいいですけども、何か一つ節目があるなんていうときには、メールかなんかで、或いは書面でもいいですけど、ご連絡いただいでできるだけ委員の皆さんのご発言を吸い上げるような形で、やっていけたらと思います。やっぱりこういうことをやる時は、みんなで一応やったっていう形にしないと、私が申すまでもないことですけど、その方がいいと思います。他いかがですかあとあんまり時間ないですけど。</p>
(委員)	<p>議長もおっしゃったけど、協議事項なので、何らかの議決というか、しなきゃいけないと思うので継続審議っていう、そういう議決ということで今日はいいじゃないかなって気がします。サジェスションですけども。</p>
(議長)	<p>ありがとうございます。引き続き継続していくということで。そうですね、それで、例えば今日はこうやって出た意見が言いつ放しで終わっちゃいけないので、もちろん録音されていると思いますけども、ちょっとお答え先ほどいただきましたけど、ちょっとそういったところは、お手数ですが項目別誰が発言したか、その内容についてちょっと整理していただいて、それに対して事務局としてどのように考えているかっていうちょっと答えというか、見通しをちょっと提示していただくと、また議論が次に繋がってきますので。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございます。今回、先ほどおっしゃっていただきましたけど、録音しておりますので、議事録作成いたしますので、第一段階として議事録を皆様に、文字起こししたものを見ていただいて、文言に齟齬がないとか、そういうのをまず見ていただいた後で、我々の方から、正式版と出た意見に対する考え方っていうのをお付けして、皆様に配布させていただきたいと思います。それについてまたやりとりをしていくことで、何か議論も深化するのかなと思いますので。ぜひご協力の方よろしくお願ひしたいと思います。</p>
(議長)	<p>ありがとうございます。こうやってできるだけみんなで風通しよくやっていけたらと思います。 そういたしましたら、ちょっとほかにもまだまだ話したいことはありますけども、予定された時間が参りましたので、継続審議ということで、本日の協議会はこれで終了とさせていただきます。 あとは事務局にお戻しします。</p>

(事務局)	<p>皆様、お疲れ様でした。本日皆様からいただきましたご意見につきましては今後の板橋グリーンカレッジの運営の参考にさせていただきます。</p> <p>次回の運営協議会の開催につきましては、今年の7月頃を予定してございます。決まり次第皆様にご通知を申し上げますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>以上をもちまして令和4年度第2回板橋グリーンカレッジ運営協議会を閉会させていただきます。誠にありがとうございました。</p>
-------	--